

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 12 日現在

機関番号：32686

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26360078

研究課題名(和文) 移民と観光の相互関係についての基礎的研究－華人のディアスポラ経験をめぐって－

研究課題名(英文) Interaction of Diaspora and tourism: about Chinese Diaspora experiences

研究代表者

舩谷 鋭 (MASUTANI, Satoshi)

立教大学・観光学部・教授

研究者番号：90277806

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究はこれまで「人の移動」という部分では類似しながら、相互に異なる性格を持つ現象として捉えられてきた「観光」と「移民」の現代的な相互関係についての研究を行った。その際に本研究が事例として選択したのが、東南アジアにおける中国系住民(華人)のコミュニティやネットワークが、いかにして観光資源化しているのかという問題であった。そこでは、華人のコミュニティやネットワークの諸相を「ディアスポラ経験」という概念によって捉え、異なる民族集団や非華人系国民といった複数のエージェント間がいかにして観光資源として認識、構築、利用されるかという問題について明らかにすることができた。

研究成果の概要(英文)：This study performed "Tourism" and the study of the modern mutual relations of "Diaspora" that had been arrested as a phenomenon to have different character mutually while resembling it in the part called "Migration Studies" until now. It was a problem how the community and the network of the Chinese Overseas (Chinese immigrant) in Southeast Asia made tourist attractions on this occasion that this study chose as an example. I caught the diverse aspects of community and the network of the Chinese immigrant by a concept of "the Diaspora experience" and was able to clarify it about recognition, construction, a problem whether was used as tourist attractions how there between the plural agents such as the different ethnic group and non-Chinese immigrant system nation.

研究分野：観光学

キーワード：人の移動 移民 観光客 華僑 華人

1. 研究開始当初の背景

2009年に国連世界観光機関（UNWTO）は「観光」と「移民」は21世紀における無視できないグローバルな二つの現象であるという報告を発表した（UNWTO 2009）。グローバル化の顕著な特徴としてしばしば言及されるのがヒトの移動の大規模化・加速化・多様化であるが、この潮流の中で「移民」と「観光」の相互関係にも注目が集まるようになってきたのである。だが両者の関係についてはこれまで十分に研究されてきたとは言いがたい。「観光」が日常の生活空間を離れ一時的に非日常を楽しむという「消費活動」である一方で、「移民」とはある地域から別の地域へと住居を移すことにより長期にわたり生活するという「生産活動」としての性格が強いことが理由の一つであったからだと思われる（cf. Hall & Williams 2010）。だがグローバル化の進展とそれに伴う移動通信手段の発展や国境を越えたライフスタイルの多様化により、これまで異なる現象として捉えられがちであった「移民」と「観光」を過度に弁別して捉える姿勢が反省され、両者の連続性を研究する必要が認識されるようになった（Coles & Timothy 2004）。

「移民」と「観光」の相互関係を表す概念としてしばしば言及されるのが、MLT（Migration-led Tourism: 移民が主導する観光）とTLM（Tourism-led Migration: 観光が主導する移民）である。MLTと総称される観光形態に見られるように、移民による故郷訪問や親族・知人訪問観光（VFR: Visit Friends and Relatives）、祖先の出身国への巡礼的な訪問、祖先の出身地での「ルーツ観光」（Root Tourism）の隆盛やそれによる移民送出地域における経済効果は、移民送出地域の政府や観光関連企業、地域社会に多大な影響を与えている（e.g. Basu 2007）。さらに移民による送金や投資が出身地の観光開発に対し多大な経済効果を持つことや、ホスト社会における異文化への寛容度の増加や興味関心の変化により、自国内の移民コミュニティを観光スポットとして資源化することが可能になったことも指摘されている（e.g. Rath 2007）。TLMと総称される観光でも、観光開発に沸く地域（例：ドバイやシンガポール）への外国人労働者の流入や、日本人や北欧の人々による東南アジアや南欧諸国、南太平洋地域への退職後のセカンド・ホーム移民が注目を集めている。UNWTOによる、各国の政策担当者や観光業関係者は今後MLTやTLMにより注目した政策立案や市場調査を行う必要がある、という主張は、以上のような社会的動向を反映している（UNWTO 2009）。

しかしながら、移動する人々の規模の拡大やそれに伴う地域社会や関連企業に与える経済効果については注目が集まる一方で、「移民」と「観光」に共通するグローバルな背景や両者の関係性にはいまだに十分な注意が

払われているとは言いがたい状況である。

2. 研究の目的

本研究は東南アジアにおける中国系住民（華人）のコミュニティやネットワークが、いかにして観光資源化しているのか、またそれが異なる民族集団や非華人系国民といった複数のエージェントの間でいかにして観光資源として認識され、利用されるのかといった問題について明らかにすることを目的とする。それにより従来、「人の移動」という点で類似してはいるが、相互に異なる現象として捉えられてきた「移民」と「観光」の現代的な相互関係の一端を明らかにすることを目的とする。

MLTやTLMといった観光形態に対する現時点での興味関心は、それらが移住先にせよ、移住元にせよ、観光業界や観光地にとっていかなる経済効果をもたらすのかといった実利的な問題意識に基づくものが多い。だが観光という現象が複合的な存在であることはすでに多くの研究者によって指摘されてきた。また観光が複合的な現象であるのと同様、観光に参加する主体も多様であることについては、古典的な「ホスト&ゲスト論」や「観光経験の現象学的研究」等（e.g. Cohen 1979）観光研究では常に議論されてきたテーマである。そのため「移民」と「観光」との関係性を理解する上でも観光の場における主体の多様性は無視することはできない。そのため「移民」と「観光」との現代的な相互関係の特徴を理解するためには、観光政策や経済効果に注目する以外にも、そのような複合的な観光形態が、当事者としての移民やホスト社会の住民、移民送出地域や移民受け入れ地域にとっていかなる意味を持っているのか、という意味論的な視点に基づく研究が必要とされる（cf. Geoffroy & Sibley 2007）。

以上の問題意識に基づき、本研究は東南アジアの中国系住民を事例として選択し、彼ら彼女らのコミュニティや生活文化が居住国の非華人系住民や他国の華人、中国や台湾等の中国文化圏の住民といった多様なエージェントの中でいかにして観光資源として認識されてきたのかといった問題を、文学作品や紀行文、新聞記事等の文献資料研究と、当事者へのインタビューや参与観察といったフィールドワーク調査という二つの側面から明らかにすることを計画している。

3. 研究の方法

本研究プロジェクトは東南アジアにおける華人の生活文化が、多様な主体間の中でのいかにして観光資源化するのかを、文献資料研究とフィールドワーク調査によって明らかにする。そのために（1）マレーシア、シンガポール、タイといった東南アジアの華人コミュニティ、（2）台湾における東南アジア華人コミュニティと彼ら彼女らの活動、（3）中国南部の移民送出地域、を調査対象

地域として設定し、これらの地域で東南アジア華人の自己の生活文化や居住地、祖先の故郷等を調査する。それにより、多民族社会での観光政策や、文芸活動・芸術活動による自己のイメージ操作、世界遺産登録に伴う華人文化の混雑性の観光資源化といった、文化を巡るポリティクスに注目した研究を行う。そして文献研究とフィールド調査によって得られたデータを、「観光と移民の現代的な関係性」という観点から分析・理解する。

4. 研究成果

海外との関連研究を行う研究機関、研究者との連携が実現できたことは資金を伴うプロジェクトならではの成果として特筆できる。その範囲は東・東南アジア、マレーシア（代表者所属学部間協定校のマラヤ大学、マレーシア科学大学、プトラ大学、ラーマン大学、南方大学、新紀元大学）、シンガポール（本プロジェクトによる交流きっかけに代表者の所属大学協定校となった南洋理工大學、シンガポール国立大学）、台湾（台北大学、元智大学、中山大学）におよび、カック内の大学からは複数回の国際研究会合による研究交流、インタビュー、資料交換を行い、継続的な共同研究課題をいくつか共有し得た。国内においても、先行研究と人的リソースについての収集・聴取（関東、関西圏の大学や観光関連学会など）とそれらの整理を行った。前述の国際研究会合は 2015、2016 年度の二回実施し、本研究課題を中心テーマとし、国内外（マレーシア、シンガポール、台湾、アメリカなど）から研究者が集い、各自の研究発表と終了後のエクスカージョンによって、膝詰めの議論を行い、豊かな知見が得られた。国内では英語を交えた国際会議が多いが、本課題に関連する研究者の民族語に合わせ、運営、発表、議論を中国語使用としたことで、他に類を見ない個性的な研究集会を実施することができた。こうしたノウハウを生かし、今後も同様の実施を国内外から期待されている。現地調査としては、マレーシア、シンガポール、台湾、中国で中期間の調査を実施することができた。本課題についての調査研究はもちろん、今後の課題継続のテーマとして、現在の人の移動状況の背景となった時代、すなわち冷戦期における分析、検討が明らかになった。こうした視点は少なくとも国際的なアジア研究において、現時点のトレンドとして共有されている。以上の調査研究活動により、華人コミュニティの中の移民と観光についての文化資源の構築と変容について、この間の発表業績などで明らかにすることができた。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕(計 6 件)

舩谷鋭：観光文学研究とエコクリティシ

ズム 『立教大学観光学部紀要』19、2017.3(pp.38-43) 「査読無」

舩谷鋭：観光文学研究から批評理論へ『日本観光研究学会全国大会学術論文集』31、2016.12 (pp.405-408) 2016.12 舩谷：観光文学研究とエコクリティシズム 『立教大学観光学部紀要』19、2017.3(pp.38-43) 「査読無」

舩谷鋭：海域学としてのインドネシア華人研究『なじまあ』6、2016.3 (pp.12-13) 「査読無」

舩谷鋭：シンガポールのスタディツアー『観光研究所だより』12-2、2016.2 (p.8) 「査読無」

舩谷鋭：観光土産のコモディティ化：月餅を中心に『日本観光研究学会全国大会学術論文集』30、2015.11 (pp.197-200) 「査読無」

舩谷鋭：ユースツーリズムはなぜシンガポールを目指すのか：スタディーツアーとしてのグローバル研修『シンガポール日本商工会議所月報』2015.2 (pp.7-12) 「査読無」

〔学会発表〕(計 17 件)

舩谷鋭：観光文学研究からエコクリティシズムへ。日本観光研究学会（江戸川大学・千葉県流山市）2016.12

舩谷鋭：企画・運営 国共内戦・冷戦時期馬華文学芸術・言語・歴史 国際シンポジウム（使用言語：中国語）立教大学観光学部交流文化学科・埼玉県新座市（共催：マレーシア・プトラ大学）2016.10

舩谷鋭：Imagined Chinese in the writings of Oey Tong Pin and Pramoedy Ananta Toer. The 3rd International Conference on Chinese Indonesian (Jakarta, Indonesia) 2016.3"

舩谷鋭：企画・運営 国際シンポジウム 現代マレーシアの舞台芸術と文化政策。日本マレーシア学会、立教大学アジア地域研究

所・埼玉県新座市 2015.12

舩谷鋭 : Global Language Standard of Sinophone Writing. MALAYSIA INTERNATIONAL CONFERENCE ON FOREIGN LANGUAGES (Selangor, Malaysia) 2015.12

舩谷鋭 : 企画・運営 當代漢語文學的 "概念與思潮" 國際學術研討會 (現代中国語文学「概念と思潮」国際シンポジウム、使用言語：中国語) 立教大学観光学部交流文化学科・埼玉県新座市 (共催：台北大学、元智大学) 2015.11"

舩谷鋭 : 観光土産のコモディティ化。日本観光研究学会 (高崎経済大学・埼玉県熊谷市) 2015.11

舩谷鋭 : シンガポールの戦争の記憶とダークツーリズム：ナショナルアイデンティティをめぐって。東南アジア学会関東例会 (東京外国語大学・東京都府中市) 2015.10

舩谷鋭、市川哲：日本の「聖地巡礼」観光というコモディティ化 中日韓朝言語文化比較研究国際シンポジウム (中国吉林省延吉市) 2015.8

舩谷鋭 : Dark Tourism to testify the resilience of Southeast Asia Experience in Japanese Occupation. ICAS9 (Adelaide, Australia) 2015.7

舩谷鋭 : Images of the Maritime Chinese in the writings of Oey Tong Pin and Pramoedya Ananta Toer. The Maritime Order and Social Integration in Southeast Asia International Workshop (NTU, Singapore) 2015.6

舩谷鋭 : War Memory and National History: from Dark Tourism Dimention. The Asian Association of World Historians Congress 2015 (NTU, Singapore) 2015.5

舩谷鋭 : Cultural Heritage as Sustainable Tourism Resource . 15th Science and Technology for Culture (Siem

Reap, Cambodia) 2015.5

舩谷鋭 : Asian Colonial Heritage as Dark Tourism sites. International Conference on Natural Resource Tourism and Service Management (Kota Kinabalu, Malaysia) 2015.4

舩谷鋭 : Made in Malaysia via Formosa to Japan Imaging Asia Sympo (NTU, Singapore) 2015.1

舩谷鋭 : Transnational Literature from Malaysia to Taiwan. 9th International Malaysian Studies Conference (Terengganu, Malaysia) 2014.8

舩谷鋭 : 左翼文学到旅台文学 - 海外马华文学研究。第二届马来西亚华人研究国际双年会 (KL, Malaysia) 2014.6

〔図書〕(計 1件)

舩谷鋭 『シンガポールを知るための 65章』[共著] 明石書店 2016.6、359頁

〔産業財産権〕

○出願状況 (計 0件)

○取得状況 (計 0件)

〔その他〕

ホームページ等
<http://masutani.biz> ~海外プログラム

6. 研究組織

(1) 研究代表者

舩谷 鋭 (MASUTANI, Satoshi)

立教大学・観光学部・教授

研究者番号：90277806

(2) 研究分担者

市川哲 (ICHIKAWA, Tetsu)

名古屋市立大学・人文社会学部・准教授

研究者番号：40435540